



右頁/建築家、アラステア・スタンディングの意図した、柔らかな光が差し込むAVコーナー。マンハッタンの都心にいるとは思えない、くつろぎの空間。アーティストであるオーナーの繊細なコーディネーションが空間に彩りを添える。壁に飾られたオイルペインティングはStephanie Brody-Ledermanの作品「Midnight Swim」oil on canvas and wood, H96 X W48 inch, 1992-2002。下ノ5階壁面はほとんどが収納。中央部はドアつき収納庫。窓に近づくにつれ、開放的なシェルフへと変わり、窓際は壁面があらわに。これは窓からの光を十分に採り込むための工夫。動線と家具の配置が計算しつくされた空間



New York Lofts

Lederman Loft

Architect : Alastair Standing AIA, RIBA
Contractor : Tetsu Usui
Photographs : Nacása & Partners
Text : Yutaka Takiura AIA

ニューヨーク・マディソン街。きらびやかな街並みの喧騒^{けんそう}を離れ、建物の最上階に位置するメゾネットの住宅。まさにニューヨーク、アッパークラスのプライベート・レジデンスだ。イギリス出身の建築家、アラステア・スタンディングとオーナーは、緻密^{ちみつ}な設計がなされた空間をバックグラウンドに、柔らかなデコレーションを重ねて光あふれる美しい空間を生み出した。



4階。この空間のハイライトはガラスの吊り階段。上層からの光を下層のキッチンへ導き、まるで光のシャンデリアのよう。暖炉は手を加えず以前のまま残した。歴史を重ねた存在感が空間を引き締めている



Alastair Standing AIA, RIBA
(Standing Architecture, LLC)
アラステア・スタンディング

1959年、イギリス・マンチェスター生まれ。'83年にロンドンAAスクール卒業後、'88年から'92年まで建築家、ザハ・ハディットに師事。'91年にアラステア・スタンディング・アーキテクト事務所を設立し、2001年にはスタンディング・アーキテクチュアに改組。主な作品は、1995年「ロッサー・スタジオ・アパート」(マンハッタン)、'97年「ロッサー・ロフト・アパート」(マンハッタン)、2000年「ジンマー・ロフト・アパート」(マンハッタン)、'03年「ロッシェ邸」(ハドソンパレー)など、住宅を数多く手掛けている。1993年にはアメリカ建築家協会優秀デザイン賞を受賞。

執筆者プロフィール
Yutaka Takiura AIA (アメリカ建築家協会所属)
アメリカ・ニューヨーク在住の建築家。早稲田大学卒業後、イリノイ工科大学大学院およびペンシルベニア大学大学院修了。現在はニュージャーシー工科大学建築学部教授、パーソンズ・スクール・オブ・デザイン客員教授、MIT客員講師を務める。モダニズム・デザインの研究家として、エッセイなどを出版する一方、マンハッタンのある有名レストランやナイトクラブのデザインから、住宅、高層ビルの設計に至るまで幅広く手掛ける。

ニューヨークという都市は、それ自体がマジックだ。絶えず変化していて捉えどころがなく、歴史があるのにいつも新しい。ニューヨーク・コレクションから飛び出したような、最先端のファッションを身にまとった人々が、100年前からまったく変わらない華やかでクラシカルなスペースに集う。そんな「魔法の街」に新たな空間をつくることは、大きな挑戦である。建築家のアラステア・スタンディングはオーナーと打ち合わせを重ねるうちに、単なるインテリアデザインの枠を超えて、屋外とインテリアを関係づけるアイデアを提案した。たとえば、ニューヨークやパリのアトリエはビルの屋上に設けられ、北側からの柔らかな光を間接的に採り入れている。それと同じように、この住宅では光と影を巧みに扱っている。

建築家のコンセプト

アラステア・スタンディングはイギリス・マンチェスター生まれ。スタンディングの名曲「イングリッシュマン・イン・ニューヨーク」ではないが、ロンドン育ちのイギリス人がニューヨークに生み出す空間は、ニューヨークに対する憧れと違和感が複雑に見え隠れする。

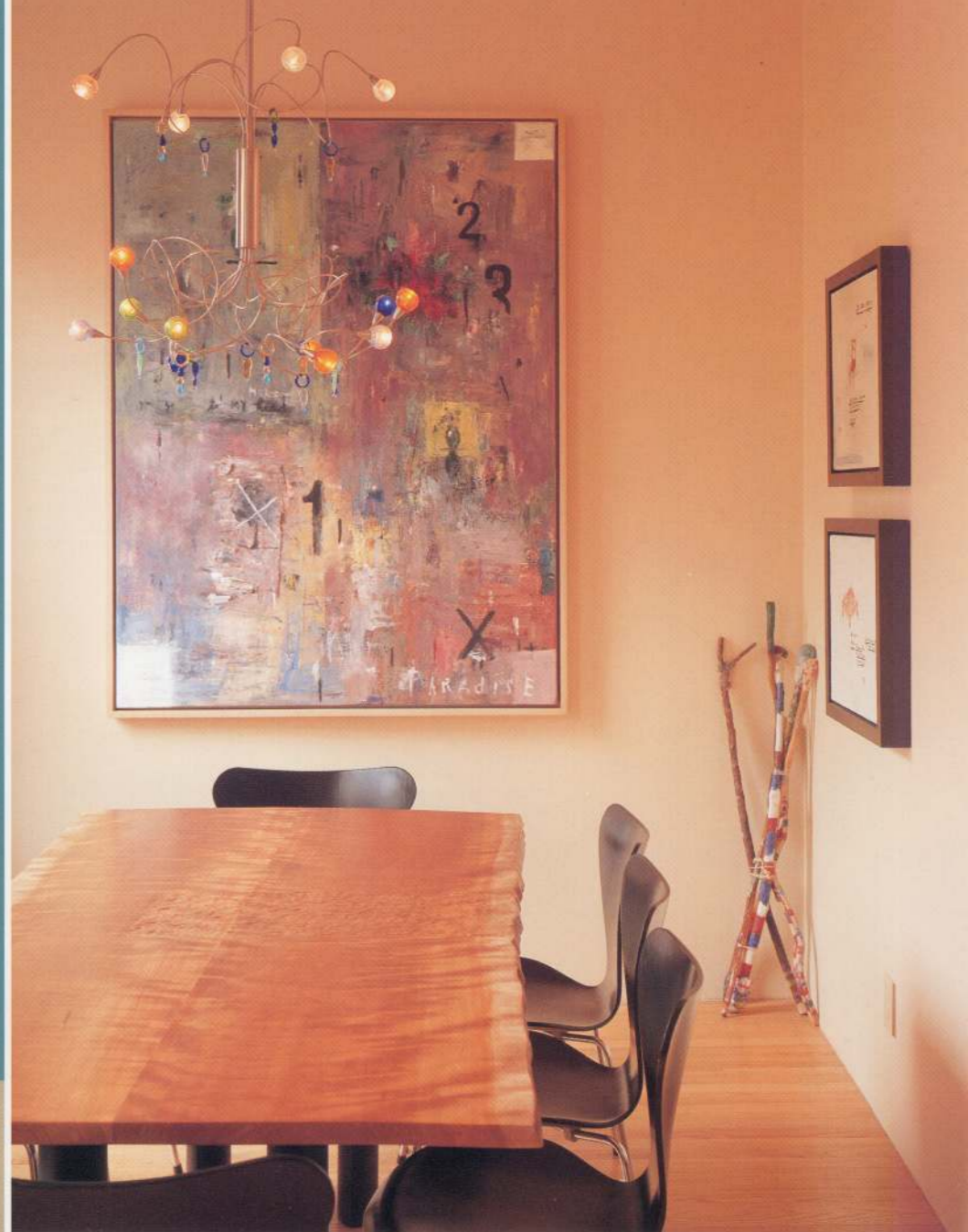
スタンディングが学んだロンドンAAスクールは、1980年代から現在に至るまで、理論派の建築家を育てたことで知られる。世界各地で活躍する建築家のスーパースター、レム・コールハースやザハ・ハディットを筆頭に、デザイン界をリードする建築家たちが学び、教えている。スタンディングはAAスクールで学び、その後ザハ・ハディット事務所に勤務、理論的な建築へのアプローチはこのときに身につけたものだ。

レターマン邸は、スタンディングの都市住宅シリーズ4作品の最終作。彼は、光を巧みに採り入れた美しい空間を生み出すことで知られる。「自然光の軌跡を利用して、この空間を表現したんだ」と語る。「周囲の光の影や自然光の入り方で、その場所固有のものがパターンが決まる。それを解析して、空間の構造を光がそう思った」この住宅の場合、地上5階建てのうち2層分をメゾネットとし、光が均等にまわるように、「コン」ビュレーターでシミュレーションした。



New York Lofts

右/4階のチェリー材のダイニングテーブルと正面に飾られたオイルペインティング Stephanie Brody-Lederman「Third Try」oil on canvas, H66×W50 inch, 1993. 特徴あるシャンデリアはバリエーション豊富なコレクション。オイルペインティング Stephanie Brody-Lederman「Outdoor Girl」oil on linen, H48×W72 inch, 2003 下左/暖炉の上には、花やキャンドルホルダーが並べられている
左頁/ガラスの階段の5段目をそのまま伸ばし、キッチンのカウンターに。階段、カウンター共にステンレスのロッドで上階から吊られている。キッチンを挟んで空間がつながる



建築的操作

始めに自然光の入り方を分析する。それに基づきトップライトや新しい窓、ガラスの床、階段を配して、暗がりにも光を呼び込む。人々が光のなかに動き回ると、そのシルエットが動く。部屋を横切ったり、階段を上がったりすると、階段のガラス面や、空間を分ける半透明のガラスにそれが映し出される。人の気配を光に置き換えて表現しているといえるだろう。一方、キッチンユニット、ランドリー、バスタブ、収納庫、本棚といった機能部分は、直接光の当たらない場所に置かれている。デザインの核となるガラスの階段は、トップライトからの光を下層まで、プリズムのように回折させながら導く。ここでは透過光の効果を最大限生かすため、階段自体を上階から吊り下げ、構造を最小限にした。また一日中一定した光のパターンを得るため、照明器具は天井ではなくトップライトや窓などの開口部の「内」に組み込んだ。

オーナーのテスト

オーナーであるジェラルド・レダーマン、ステファニー・プロディー・レダーマンがスタンディングと組むのは二度目。1990年代初めに彼らの邸宅を、マンハッタン郊外のセプリティエーやアップパークラスの人々が集うことで有名な避暑地に建てたのだ。その住宅も敷地の条件と景観を生かした、ユニークでありながらも考え抜かれたものであった。彼らはその住宅に満足し、マンハッタンの都心にあるこの住宅を考える際にも、スタンディングを起用した。

またステファニー・プロディー・レダーマンさんは彼女自身、有名なアーティストである。この住宅に設けられた彼女のアトリエには柔らかな光があふれ、スタンディングが空間に生み出した光と絶妙に絡み合うよう、彼女の作品が至るところに散りばめられている。

施工精度

「このミニマリズムはまさに芸術だよ」とスタンディングは語る。ミニマルに見せるためには、十分な経験に加え、深い考察力と細心の注意が必要だった。また、施工者の職人気質も加わり、この住宅は完成度の高いものとなった。デザイナーと

施工者の息の合った連携が良い結果につながったのだ。さらに、ステファニーさんがアーティストであり、ものづくりに十分な理解があったことにもよるだろう。「工事中、大きな問題もなく、仕事に専念できました。ニューヨークでは珍しいことですよ」と施工者の代表、テツ・ウスイも笑みを浮かべる。

空間構成の面白さ

この住宅の第一印象は、「とにかく明るい空間で、マンハッタンの中心地にもかかわらず、こんなに光が差しているのはなぜだろう」というものだった。スタンディングは、自然光を有効に使う人工光源の使用を削減し、結果的に光熱費の節約にもつながった、と話す。空間を演出するためだけではない、実用性も十分に考慮されている。彼の優れたデザインセンスは、独特の建築理論を軸に、空間を実用的で美しいものへと昇華している。人の感覚を刺激するような微妙な対比と統合を、ディテールと仕上げに込める。たとえば、明るい色と落ち着いた色の対比。また、自然なものと工業的なものといった、異質な素材感の調和。そしてガラスやステンレス、タイル、何種類かの木素材などのさまざまな材料を、絶妙な組み合わせで用いること。さらに、完成度を高めるため、木目やタイルの目地一つひとつにまでこだわりの見え方。一方、実際の生活に必要なものや、オーナー家族に代々伝わるアンティーク家具を違和感なく取り入れ、各部屋の特徴を柔らかく醸し出している。

絶妙なバランス感覚

自然光からであったり人工光源からであったりはあるが、居住部分には常に光が差している。バランスを取る部分には、生活をサポートする設備類や収納スペースをレイアウト。スタンディングは、「光」という、目に見えそうで見えないものを巧みに操るマジシャンだ。光と影の対照と調和を同時に成立させる。そして、機能的に独立したいくつもの部屋を、住空間全体として見事な統一感でまとめた。まさに「魔法の街」ニューヨークにふさわしい、建築家とオーナーの絶妙なバランス感覚が、この住宅では大きな役割を担っているのだ。



右頁/5階中央に見える大型のスライディングドアの後ろには、収納スペースのほか小型のウェット・バーが。ブナ材のスライディングドアと床の白い磁器質タイルの組み合わせが、空間のアクセントに。タイルは、水を使う場所であるという実用性と、光の反射による効果を考慮して選んだ
 上/5階寝室には、柔らかく穏やかな自然光が差し込み、安らかなひとときをもたらす。色彩豊かなカーペットは1940年代のチャイナ製アンティーク 左/50年代につくられたテーブルランプはオーナーが両親から譲り受けたもの。同じくアンティークのミラーと合わせて、落ち着いたトーンでまとめている

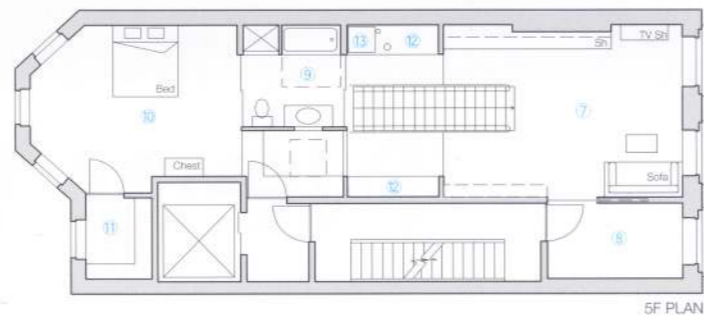
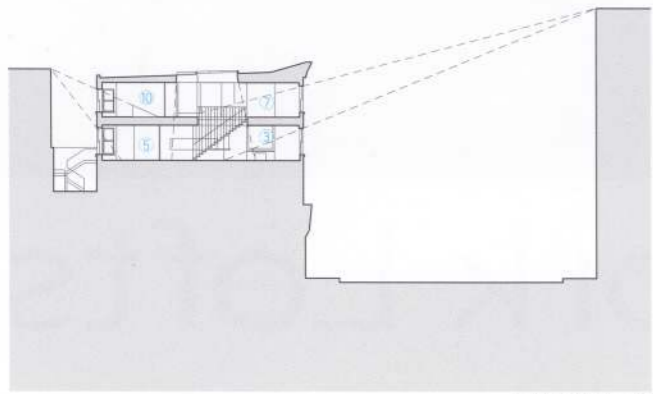




右頁ノ半透明ガラスの床は、トップライトから入る光をそのまま階下のキッチンへと導く。半透明のスライディングドアは、バスルームとAVルームを流れるようにつないでいる。日が沈むと、トップライトや窓に仕込まれた照明器具に灯がともる。一日を通じて光が同じように差し込むよう、周到に計算されている

上右ノ光にあふれるメイン・バスルームは、住宅の中央部に配され、空間と連続している。通常の「浴室」のようにほかの部屋から切り離されず、突然、廊下に浴槽が置かれているような面白いプランニング 上左ノアトリエに配されたトイレ

New York Lofts



- ① ENTRANCE
- ② KITCHEN
- ③ LIVING
- ④ DINING
- ⑤ ATELIER
- ⑥ TOILET
- ⑦ AV ROOM
- ⑧ STUDY ROOM
- ⑨ BATH ROOM
- ⑩ BED ROOM
- ⑪ WALK IN CLOSET
- ⑫ CLOSET
- ⑬ WET BAR

DATA
 床面積ノ4階約100㎡ 5階約100㎡ 合計約200㎡
 家族構成ノMr.Gerald Lederman and
 Ms.Stephanie Brody-Lederman

